

科目名	国語総合	授業時数	週 5 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	現代文、古文、漢文をはじめとする国語の総合的な分野において、基礎学力を身に着ける。また、主体的な活動を通して日常的な会話や文書などの表現力を身に着ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につけて活用することができる。	論理展開や描写、表現の技法を把握しつつ、文章の主題を的確にとらえ、表現することができる。	他者の意見、自分の意見をまとめ論理的に表現することができる。
	A わかる	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	基礎的な語彙力、文法力に基づいて筋道立てて考え、それを表現することができる。	自分の考えを他者と伝え合うことで、論理的に表現しようとする。
	B できる	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身につける努力が見える。	基礎的な語彙力、文法力に基づいて筋道立てて考えることができる。	積極的に語彙力を伸ばす努力をし、話す聞くを中心に言語生活を豊かにしようとして心掛ける。
	C する	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて学習意欲を持つ。	基礎的な語彙力・文法力に基づいて筋道立てて考える姿勢を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法	授業時の観察・定期考査・課題確認テスト（小テスト）・漢字テスト	授業時の観察・定期考査・課題確認テスト（小テスト）課題レポートなど	授業に臨む姿勢や意欲、グループ活動等での功績など	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	『ベトナムのコーヒー屋』（現：随想）『魚は陸から離れられない』（現：評論）『とんかつ』（現：小説）『宇治拾遺物語』（古）故事成語（漢）『虎の威を借る』（漢）『蛇足』（漢）
2 学期	『オムライス』（現：小説）『水の東西』（現：評論）『バスに乗って』（現：小説）『徒然草』（古：随筆）漢詩（漢）論語（漢）
3 学期	『問題解決の心理学』（現：評論）『羅生門』（現：小説）『届く言葉、届かない言葉』（現：評論）『伊勢物語』（古：物語）和歌（古）『世説新語』（漢：史話）『十八史略』（漢：史話）

何で学ぶか(教材)

- 教科書「明解国語総合【改訂版】」三省堂 「明解国語総合【改訂版】学習課題ノート」三省堂 - 各種補助教材（プリント等）

どのように学ぶか(授業方法など)

学んだ知識・読解技能を使って文章などを読み、時に自ら考え、あるときは他者と考えを伝え合うことで思考を深め、それを言葉で表現する。板書による講義型の授業に限らず、生徒主体の学習活動を取り入れる。

科目名	数学 I	授業時数	週 3 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	粘り強く考え数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、評価・改善しようとすることができる。
基	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的に考察し、問題を解決できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
準	問題に応じて適切な公式を使うことができる。	適切な用語・記号を使い、過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	簡単な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査 ・確認テスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 1次不等式 集合と命題
2 学期	2次関数のグラフ 2次方程式と2次不等式 三角比
3 学期	正弦定理 余弦定理 データの分析

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 最新数学 I』 数研出版『改訂版 3ROUND数学 I +A』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	数学A	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	数学的活動を通して基本的な知識の獲得，知識の習熟を図り，事象を数学的に，論理的に考察する能力を育成することを目指す。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 数学的に解釈したり，数学的に表現したりすることができる。	日常における事象を数学的に捉え，数学的に考察，解釈することができる	できないことに対して周りと協力して深く考察して問題解決に取り組むことができる。
	A わかる 定理や公式の主張を理解し，それらを体系的に理解することができる。	一つの問題を別の解法やアプローチを用いて解くことができる。	不明な点は放置せずに何がわからないかを言語化して質問することができる。
	B できる 場合に応じて定理や公式を使い分けて，問題を解くことができる。	適切な用語・記号を用いて過程と結果を導くことができる。	授業内で与えられた課題に取り組むことができる。
	C する 基本的な計算や式変形を行うことができる。	数学の記号や，問題文の意味を理解することができる。	服装や筆記用具などの授業に参加するための準備ができています。
評価方法	・授業 ・定期考査 ・確認テスト	・授業 ・定期考査 ・確認テスト	・授業 ・提出物 ・グループワーク

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率
	第1章 場合の数と確率 第2節 確率
2 学期	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形
	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形
3 学期	第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 第2節 ユークリッドの互除法 第3節 整数の性質の活用
	第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 第2節 ユークリッドの互除法 第3節 整数の性質の活用

何で学ぶか(教材)

数研出版 最新数学A 3ROUND 数学 I +A

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習

科目名	美術 I	授業時数	週 1 単位
コース・学年	研志 コース	1 学年	
目標	美術に対する興味・関心を持ち、意欲的に美術活動に取り組む態度を身に付ける。		

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	正確な描写、明度の表現ができる。他者への指導もできる。	自己のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	全ての学習を通して表現を工夫することができる。
基	物の表現がある程度のレベルまで表現ができる。	形、材質、トーンの表現ができる。	デッサン、彩色学習に積極的に取り組むことができる。
準	基礎的な表現法を身につけることができる。	構図を考えて、表現することができる。	デッサン、クロッキー、鑑賞・美術理論の学習に積極的に取り組むことができる。
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	オリエンテーション 身近なものの、デッサン ・手、筆記用具など 美術選択者全員のクロッキー
2 学期	色彩構成 グラデーションの効果 名画鑑賞 1 ゴッホの人生とその作品、背景
3 学期	作品模写 ゴッホ

何で学ぶか(教材)

高校生の美術 1 (日本文教出版)
副教材 スケッチブック、水彩画
用具 (中学校で使ったものを利用
してかまいません)。
それぞれの題材や活動で必要な材
料は、半期ごとに購入してもらい
ます。

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
・作品鑑賞、作品、作者説明 作
者の生き様、時代背景までを理解
しながら芸術作品を鑑賞する
(YouTubeなどの映像コンテンツの
使用)

科目名	科学と人間生活	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解することにより、科学に対する興味・関心を高める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基準	S 使える 生活から課題を発見し、考察することができる。	現象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	任意提出物を確実に提出する。 グループ活動において、主体的に役割を果たす。
	A わかる 身の回りの現象を的確に捉え、適切な知識を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	課題やワーク等を期限内に提出する。 任意提出物を積極的に提出する。 授業中に積極的に発言する。
	B できる 基本的な概念・知識が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	課題やワーク等の提出物を遅れてでも提出する。 グループ活動に意欲的に参加する。
	C する 基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	教材等の準備ができています。 私語や居眠り等をしない。 ノートやワークをきちんと書いている。
評価方法	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	1 編 生命の科学
2 学期	2 編 物質の科学 3 編 光や熱の科学
3 学期	4 編 宇宙や地球の科学

何で学ぶか(教材)

教科書（東京書籍 科人(306)） ワーク（東京書籍 ニューサポート）
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	音楽Ⅰ	授業時数	週	1 単位	
		コース・学年	研志	コース	1 学年
目標	音楽に対する興味・関心を持ち、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	出来る限り楽譜に階名を書かなくても歌唱・リコーダーの演奏ができる。	自己のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。
基	腹式呼吸やリコーダーの運指を覚え、歌唱・リコーダーの演奏ができる。	ハーモニーを感じながら曲想に合った表現ができる。	グループ・アンサンブル学習に積極的に取り組むことができる。
準	単旋律の歌唱とリコーダーの基礎的な奏法を身につけることができる。	メロディを流れるようにスムーズに演奏することができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理論の学習に積極的に取り組むことができる。
	歌唱・演奏するための基礎的な音楽理論を理解することができる。	音楽に関心を持ち、歌唱や楽器演奏に喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	音楽理論の基礎「五線」「音符と休符」 歌唱「校歌」 アルトリコーダー基礎「音階」等 アルトリコーダー「日曜日」
2 学期	音楽理論の基礎「音名」「階名」 歌唱「翼をください」 アルトリコーダー「主は冷たい土の中に」
3 学期	音楽理論の基礎「反復記号」「楽語」 歌唱「少年時代」 アルトリコーダー「エーデルワイス」

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSAⅠ」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア練習・グループ練習

科目名	英語表現 I	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。	紹介するトピックを決め、協働して原稿書いたり発表したりすることができる。	積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
	<i>A</i> わかる つなぎの言葉を使って文章を書くことができる。	自分のことや与えられた課題について書いたり話したりすることができる。	間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。
	<i>B</i> できる モデル会話を英語らしい発音で発話することができる。	学んだ文法を使って、文章を書くことができる。	モデル会話に関心を持ち、聞き、発話しようとしている。
	<i>C</i> する 学習した文法を理解し、知識として定着している。	例文を英語らしい発音で発話することができる。	授業を受けるための準備ができています。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	文の種類 文型と動詞 時制 助動詞
2 学期	受動態 不定詞 動名詞 分詞
3 学期	関係詞 比較 仮定法

何で学ぶか(教材)

啓林館『Vision Quest English Expression I Core』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習 ペア学習・グループ学習

科目名	コミュニケーション英語Ⅰ	授業時数	週 3 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基準 S A B C 使える わかる できる する	自分の立場に置き換えて適切な英語表現を用いて正しく話したり書いたりできる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し、相手に理解してもらうことができる。	自然に相づちをうつ、相手の目を見るなど積極的にコミュニケーションをとることができる。
	相手が表現する内容を正しく捉えることができ、内容を理解することができる。	事物に関する紹介や対話などを見聞きし、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。	理解したことを他者と確認したり、意見を伝えたりすることができる。
	内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読みんだり書いたりすることができる。	事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすることができる。	理解できない部分をそのままにせず他者に聞くなどして解決することができる。
	モデル文を真似て読み書きする。	平易な単語を置き換えて、パターンプラクティスすることができる。	授業を受ける準備ができる。(用具、服装・整理整頓など) また教師の話を集中して聞くことができる。
評価方法	授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	授業・提出物・インタビューテスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	be動詞，一般動詞，否定文，疑問文 現在形・過去形，助動詞，文の成り立ち 進行形，不定詞，動名詞
2 学期	現在完了 受け身 現在分詞，過去分詞
3 学期	比較 関係代名詞 関係副詞 分詞構文，仮定法過去

何で学ぶか(教材)

数研出版『Revised COMETⅠ』 数研出版『COMET英単語』 プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	家庭基礎	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る課題解決能力と実践的な態度を育て、多様な活動による人間的成長を目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけて、実践することができる。	家庭や地域の生活について自身の役割を理解し、課題解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけ、表現することができる。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して課題解決に向け主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。
	<i>A</i> わかる 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について自身の役割を理解し、課題を見出すことができ、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	課題解決に向け、改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
	<i>B</i> できる 家庭生活の意義や役割を理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について課題を見出すことができる。適切に判断する能力を身につけている。	できないことに挑戦し、他者と協働しながら課題解決へ向かおうとすることができる。
	<i>C</i> する 家庭生活の基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について課題を考えることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	人とかかわって生きる 家族分野 保育分野 社会福祉分野
2 学期	生活をつくる 食分野 被服分野 住居分野
3 学期	消費者として自立する 消費行動 経済分野

何で学ぶか(教材)

図説 家庭基礎 (実教出版) 新図説家庭基礎学習ノート (実教出版) 2020生活学Navi (実教出版) プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習 講演

科目名	社会と情報	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	S 使える 社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解し、情報化の進展に主体的に対応できる。	日常生活での情報に関する知識の活用方法を適切に判断し、情報モラルを身につけることができる。	情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うことができる。
	A わかる 情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解できる。	情報技術やセキュリティについての思考を深め、自身の現状を適切に把握することができる。	情報社会の在り方と情報技術の適切な活用について主体的に考え、発表し合うことができる。
	B できる 情報に関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用した実習に取り組むことができる。
	C する 情報に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	私たちを取り巻く情報 アナログからデジタルへ 情報の表現と伝達 インターネットの利用
2 学期	ネットワークとコミュニケーション 情報化の影響と課題 法律と個人の責任
3 学期	社会における情報システム 情報システムと人間 情報社会と問題解決

何で学ぶか(教材)

教科書 社会と情報 東京書籍 関連プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

教科書を中心とする講義形式 グループ活動 PC利用による実習

科目名	体育	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース・学年	研志 コース	探究
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し，プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし，集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し，より大きな力を発揮するために，集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに，自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこない，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し，またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し，基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め，機能解剖やトレーニング方法，また食育，栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。（教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など）
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習（ゲーム） チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

科目名	現代社会	授業時数	週 2 単位
コース・学年	研志 コース	1 学年	
目標	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	基本的な概念や理論及び現代の諸課題を十分に理解するとともに、諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断することができ、自らの意見をまとめることができる。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決するための討議・調査等を行うことができる。
基	基本的な概念や理論及び現代の諸課題を概ね理解するとともに、諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し、自らの意見をまとめることができる。	現代の諸課題について、その問題点や克服のための課題等に気づくことができる。
準	基本的な概念や理論及び現代社会の諸課題を概ね理解するとともに、諸資料からの情報を関連付けて考えることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察することができる。	現代の諸課題について、教員に対して、またはグループ内で質問することができる。
評価方法	定期考査 提出物 等	定期考査 提出物 等	授業態度 提出物 グループ討議 等

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	青年期と自己の形成 個人の尊重と法の支配
2 学期	現代の民主政治と政治参加の意義 国際政治の動向と日本の役割
3 学期	現代の経済社会と私たちの生活

何で学ぶか(教材)

高等学校改訂版 「新現代社会」 第一学習社 改訂版 新現代社会ノート 第一学習社

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習、グループ討議

科目名	総合的な探究	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース・学年	研志 コース	
目標	課題の見つけ方、解決へ向けての考え方、協働の進め方などの基礎知識を身につけるとともに、鳥取県に関する地域課題解決案を考える中で、主体的に物事の探究をする態度を培っていく。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	授業や外部講師のお話を聞く中で、学んだ知識をもとに、求められた以上の工夫を加えて課題を解決できる。	プロジェクトを解決するにあたり、自分たちの意見を客観視しながら、修正を重ねて仕上げる事ができる。	学習内容をもとに主体的に次の課題を設定し、他者の意見を取り入れつつ、次の行動を起こすことができる。
	A わかる	授業や外部講師のお話を聞く中で、学んだ知識をもとに、求められる水準で課題の解決をすることができる。	プロジェクト解決にあたり、他者の意見を取り入れつつも自分の意見を主張でき、まとめ上げることができる。	学習内容に対して主体的に取り組む、与えられた課題を自らの力で解決することができる。
	B できる	授業や外部講師のお話を聞く中で、学んだ知識をもとに、他者と協力しながら課題をやり遂げることができる。	プロジェクトを解決するにあたり、他者の意見を適切に聞き、まとめながら進めることができる。	学習内容に対して熱心に取り組む、与えられた課題を人の力も借りながら解決することができる。
	C する	授業や外部講師のお話を聞く中で、学んだ知識をもとに、難しい課題へも取り組もうとする。	プロジェクトを解決するにあたり、他者と協働しながら取り組みを進めることができる。	学習内容に取り組む、与えられた課題を解決しようとする姿勢がある。
評価方法	レポート、話し合い資料、プレゼン内容などの成果物	レポート、話し合い資料、プレゼン内容などの成果物、グループ活動	レポート、話し合い資料、プレゼン内容などの成果物、グループ活動	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学習内容
1 学期	(4月5月) チームビルディング (6月7月) コミュニケーション力
2 学期	(8月9月10月) 鳥取県の課題解決 (11月12月) 発表へ向けて
3 学期	(1月) クラス代表プレゼン (2月3月) 外部講師による講演

何で学ぶか(教材)

- ・オリジナル教材
(チームビルド、鳥取県の課題解決文脈の即した資料)
- ・講演、コーチング

どのように学ぶか(授業方法など)

- ・チームごとでの活動
(3～4名の班が適切)
- ・教材、外部講師

科目名	保健	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース	研志 コース 探究	
目標	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。また、自らの行動を振り返り、自身の現状を適切に把握する力を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	保健に関するさまざまな分野から課題を発見し、自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え、実行することができる。
	A わかる	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であることがわかる。	健康についての思考を深め、自身の現状を適切に把握することができる。	日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
	B できる	保健に関する基礎的な知識やヘルスプロモーションの理念を理解できる。	適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	保健に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができていない（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	健康の考え方と成り立ち、私たちの健康のすがた 健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり 生活習慣病とその予防、食事と健康 運動・休養と健康
2 学期	喫煙と健康、飲酒と健康、薬物乱用と健康 感染症とその予防、性感染症・エイズとその予防 欲求と適応機制、心身の相関とストレス 心の健康のために
3 学期	交通事故の現状と要因、交通事故を防ぐために 応急手当の意義とその基本、日常的な応急手当 心肺蘇生法の原理とおこない方

何で学ぶか(教材)

大修館書店 『最新高等 保健体育[改訂版]』 大修館書店 『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習

科目名	国語総合	授業時数	週 4 単位	1 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付け活用できる。文章を的確に読み取り、論理的な自己表現ができる。	相手や目的に応じて適切に「読む・書く・話す・聞く」ができる。主体的に学び、他者と協働して自分の考えをまとめたり、深化させることができる。	国語で伝え合う力を進んで高めつつ、言語文化への関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。課題をすべて提出する。
	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。文章を的確に読み取り、論理的な自己表現に努めることができる。	文章を的確に読み取り、目的に応じて適切な文章を書くことができ、場に応じて効果的に話したり、聞き取ったりすることで自分の考えをまとめることができる。	国語で伝え合う力を進んで高めつつ、言語文化への関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。課題をほぼ提出する。
	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けようとする積極的努力を行うことができる。	基礎的な語彙力、文法力に基づいて適切な自己表現ができる。他者と、相互に自己表現を共有できる。	国語で伝え合う力を進んで高めつつ、言語文化への関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。学習意欲がある。
	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けるための最低限の努力ができる。	基礎的な語彙力、文法力に基づいて適切な自己表現に取り組むことができる。	授業を受ける準備ができている（教材、服装）。学習活動に参加し、課題に取り組むことができる。
評価方法	定期考査、提出物、校内漢字テスト、授業時の観察	定期考査、提出物、課題レポート、生徒相互評価、授業時の観察	授業時の観察、各種提出物（提出状況、出来栄え）

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ぐうぜんうたがう読書のススメ（随想）、待つということ（随想）、古文入門（児のそら寝、検非違使忠明、絵仏師良秀）、竹取物語（古文）、ゴール（小説）、水の東西（評論）、言語は色眼鏡である（評論）、スピーチ、意見文
2 学期	漢文入門（故事成語・推敲、漁夫之利、借虎威）、羅生門（小説）、青が消える（小説）徒然草（古文）、漢詩（漢文）、情報と身体（評論）、「もの」の科学から「こと」の科学へ（評論）、万葉集・古今和歌集・新古今和歌集・土佐日記（古文）、短歌創作、スピーチ
3 学期	スピーチ、意見文、なめとこ山の熊（小説）、平家物語・奥の細道（古文）、なぜ私たちは労働するのか（評論）、命は誰のものなのか（評論）、雑説（漢文）

何で学ぶか(教材)

精選国語総合【改訂版】（三省堂）、教科書準拠学習課題ノート、常用国語便覧（浜島書店）、オリジナル教材（日本経済新聞、日本海新聞等を使用）、各種補助教材（プリント等）、朗読CD、常用漢字ワイドアルファ（桐原書店）

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義、グループワーク、ペアワーク、課題 スピーチや意見文を相互発表することでお互いの良さを学ぶ
--

科目名	数学 I	授業時数	週 4 単位	1 学年
		コース	研志 コース 大学進学	
目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	<i>S</i> 使える 問題の構造を把握し、応用問題や似た問題へ活用できる。また、別解を模索できる。	論理的に思考することで、問題間の繋がりを探究したり、統合的に表現したり、物事を数学的に判断できる。	授業以外でも研鑽を積み、学力向上へ努めることができる。また、数学的思考を数学外へも活用しようとする。
	<i>A</i> わかる 問題や公式の意味を理解し、問題の数字が変わっても問題を解くことができる。	問題を図やグラフで適切に表現することができ、公式の意味を理解して問題を解くことができる。	授業の内容を理解し、発表したり、他人に説明することができる。
	<i>B</i> できる 問題で何が問われているのか把握することができる。計算ができる。	問題で何が問われているかを理解し、解決の計画を立てることができる。	授業での内容を把握することができ、練習問題に適用することができる。
	<i>C</i> する 用語が理解できる。	自分の考え（数学的思考）をノートなどに表現することができる（数学的活動）。	学習に取り組むことができる。
評価方法	テストや授業等の数学的活動が、どの水準に達しているかで評価	テストや授業等の数学的活動が、どの水準に達しているかで評価	授業の様子や提出物で、どの水準に達しているかで評価

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 数と式 第2章 集合と命題
2 学期	第3章 2次関数 第4章 図形と計量
3 学期	第4章 図形と計量 第5章 データの分析

何で学ぶか(教材)

・改訂版 高等学校 数学 I (数研出版) ・チャート式 解法と演習 数学 I +A (数研出版) ・プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

習熟度別クラスによる学習 ・初期では、問題が解ける「できる」ことを重視する。 ・ある程度「できる」ようになれば、「わかる」を重視しアウトプットを増やしていく。

科目名	数学A	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学の良さを認識し、自主性を育む。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	使える S	事象を的確に捉え、それを数学的論理に基づいて言語で表すことができる。	自ら課題を設定し、既習内容を活用・応用することができる。
	わかる A	事象を的確に捉え、協働し数学的論理を考察することができる。	自ら課題を設定し、既習内容を反復演習することで定着を図ることができる。
	できる B	事象を理解するために、協働し考察することができる。	与えられた課題に取り組み、理解するために自ら質問することができる。
	する C	指示した考え方や数学的処理を行うことができる。	指示した内容を期限内に取り組み提出することができる。
評価方法	授業での演習 定期考査等の試験	グループ学習 発表 定期考査等の試験 記述式の問題	授業での演習 提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率
2 学期	第1章 場合の数と確率 第2節 確率 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形
3 学期	第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 第2節 ユークリッドの互除法 第3節 整数の性質の活用

何で学ぶか(教材)

数研出版 高等学校数学A 数研出版 チャート式解法と演習数学 I + A プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ/ペア学習

科目名	現代社会	授業時数	週 2 単位
目 標	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価	基本的な概念や理論及び現代の諸課題を十分に理解するとともに、諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断することができ、自らの意見をまとめることができる。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決するための討議・調査等を行うことができる。
基 礎	基本的な概念や理論及び現代の諸課題を概ね理解するとともに、諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し、自らの意見をまとめることができる。	現代の諸課題について、その問題点や克服のための課題等に気づくことができる。
基 礎	基本的な概念や理論及び現代社会の諸課題を概ね理解するとともに、諸資料からの情報を関連付けて考えることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察することができる。	現代の諸課題について、教員に対して、またはグループ内で質問することができる。
準	基本的な概念や理論及び現代社会の諸課題をある程度理解するとともに、諸資料からの情報を関連付けて考えることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて、考察することができる。	授業に意欲的に参加し、グループ内等で発言することができる。
評価方法	定期考査 提出物 等	定期考査 提出物 等	授業態度 提出物 グループ討議 等

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	現代社会と青年の生き方 民主政治とは 日本国憲法の基本原理
2 学期	日本の政治機構 現代社会の特質と課題 経済のしくみ
3 学期	変化する日本経済 豊かな社会の実現

何で学ぶか(教材)

「現代社会」 東京書籍 「現代社会 要点サブノート」 東京書籍 最新現代社会資料集2021 第一学習社

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習、グループ討議

科目名	コミュニケーション英語Ⅰ	授業時数	週 3 単位	1 学年
		コース	研志 コース 大学進学	
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	自分の立場に置き換えて適切な英語表現を用いて正しく話したり書いたりできる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し、相手に理解してもらうことができる。	自然に相づちをうつ、相手の目を見るなど積極的にコミュニケーションをとることができる。
	相手が表現する内容を正しく捉えることができ、内容を理解することができる。	事物に関する紹介や対話などを見聞きし、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。	理解したことを他者と確認したり、意見を伝えたりすることができる。
	内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすることができる。	事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすることができる。	理解できない部分をそのままにせず他者に聞くなどして解決することができる。
	モデル文を真似て読み書きする。	平易な単語を置き換えて、パターンプラクティスすることができる。	授業を受ける準備ができる。（用具、服装・整理整頓など）また教師の話を集中して聞くことができる。
評価方法	授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	授業・提出物・インタビューテスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	be動詞、一般動詞、否定文、疑問文 現在形・過去形、助動詞、文の成り立ち 進行形、不定詞、動名詞
2 学期	現在完了 受け身 現在分詞、過去分詞
3 学期	比較 関係代名詞 関係副詞 分詞構文、仮定法過去

何で学ぶか(教材)

数研出版『Revised COMETⅠ』 必携英単語 LEAP Basic プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	英語表現 I	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。	紹介するトピックを決め、協働して原稿書いたり発表したりすることができる。	積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
	<i>A</i> わかる つなぎの言葉を使って文章を書くことができる。	自分のことや与えられた課題について書いたり話したりすることができる。	間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。
	<i>B</i> できる モデル会話を英語らしい発音で発話することができる。	学んだ文法を使って、文章を書くことができる。	モデル会話に関心を持ち、聞き、発話しようとしている。
	<i>C</i> する 学習した文法を理解し、知識として定着している。	例文を英語らしい発音で発話することができる。	授業を受けるための準備ができています。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	文の種類 文型と動詞 時制 助動詞
2 学期	受動態 不定詞 動名詞 分詞
3 学期	関係詞 比較 仮定法

何で学ぶか(教材)

啓林館『Vision Quest English Expression I Core』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習 ペア学習・グループ学習

科目名	科学と人間生活	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解することにより、科学に対する興味・関心を高める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 生活から課題を発見し、考察することができる。	現象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	任意提出物を確実に提出する。 グループ活動において、主体的に役割を果たす。
	<i>A</i> わかる 身の回りの現象を的確に捉え、適切な知識を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	課題やワーク等を期限内に提出する。 任意提出物を積極的に提出する。 授業中に積極的に発言する。
	<i>B</i> できる 基本的な概念・知識が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	課題やワーク等の提出物を遅れてでも提出する。 グループ活動に意欲的に参加する。
	<i>C</i> する 基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	教材等の準備ができている。 私語や居眠り等をしない。 ノートやワークをきちんと書いている。
評価方法	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	1 編 生命の科学 2 編 物質の科学 3 編 光や熱の科学 4 編 宇宙や地球の科学
2 学期	生物基礎 第1 編 生物と遺伝子 第2 編 生物の体内環境の維持
3 学期	第3 編 生物の多様性と生態系

何で学ぶか(教材)

教科書（東京書籍 科人(306)） ワーク（東京書籍 ニューサポート）
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	物理基礎	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な問題において式を立て、解を導くことができる。	図表やグラフを正確に読み取って考察することができるとともに、グラフ等を用いて適切に表現できる。	グループワークおよび実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動できる。
	A わかる 物理学の基本的な概念や原理・法則がある程度理解でき、公式を扱うことができる。	図表やグラフを正確に読み取り、考察することができる。	グループワークでは、分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	B できる 物理学の基本的な概念や原理・法則がある程度わかる。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、グループワークでは積極的に発言するとともに課題レポートに取り組むことができる。
	C する 公式の意味がある程度わかる。	図をある程度読み取ることができる。	授業に参加し、課題レポートに取り組むことができる。
評価方法	定期考査 確認テスト 課題レポートなど	定期考査 確認テスト 課題レポートなど	定期考査 確認テスト 課題レポートなど

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 第3編 波 第1章 波の性質 第2章 音
2 学期	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 第2章 運動の法則 第3章 仕事とエネルギー
3 学期	第4編 電気 第1章 物質と電気 第2章 磁場と交流 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 第2章 物理学が拓く世界

何で学ぶか(教材)

教科書（『改訂版物理基礎』数研出版）
問題集（『リードLightノート物理基礎』

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習
グループワーク
実験や探究活動

科目名	家庭基礎	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る課題解決能力と実践的な態度を育て、多様な活動による人間的成長を目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけて、実践することができる。	家庭や地域の生活について自身の役割を理解し、課題解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけ、表現することができる。	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して課題解決に向け主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。
	<i>A</i> わかる 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について自身の役割を理解し、課題を見出すことができ、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	課題解決に向け、改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
	<i>B</i> できる 家庭生活の意義や役割を理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について課題を見出すことができる。適切に判断する能力を身につけている。	できないことに挑戦し、他者と協働しながら課題解決へ向かおうとすることができる。
	<i>C</i> する 家庭生活の基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について課題を考えることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	人とかかわって生きる 家族分野 保育分野 社会福祉分野
2 学期	生活をつくる 食分野 被服分野 住居分野
3 学期	消費者として自立する 消費行動 経済分野

何で学ぶか(教材)

図説 家庭基礎 (実教出版) 新図説家庭基礎学習ノート (実教出版) 2020生活学Navi (実教出版) プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習 講演

科目名	社会と情報	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 基 準	S 使える 社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解し、情報化の進展に主体的に対応できる。	日常生活での情報に関する知識の活用方法を適切に判断し、情報モラルを身につけることができる。	情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うことができる。
	A わかる 情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解できる。	情報技術やセキュリティについての思考を深め、自身の現状を適切に把握することができる。	情報社会の在り方と情報技術の適切な活用について主体的に考え、発表し合うことができる。
	B できる 情報に関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用した実習に取り組むことができる。
	C する 情報に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	私たちを取り巻く情報 アナログからデジタルへ 情報の表現と伝達 インターネットの利用
2 学期	ネットワークとコミュニケーション 情報化の影響と課題 法律と個人の責任
3 学期	社会における情報システム 情報システムと人間 情報社会と問題解決

何で学ぶか(教材)

教科書 社会と情報 東京書籍 関連プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

教科書を中心とする講義形式 グループ活動 PC利用による実習

科目名	体育	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース・学年	研志 コース	大学進学
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこない、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習（ゲーム） チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

科目名	保健	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目 標	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。また、自らの行動を振り返り、自身の現状を適切に把握する力を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 保健に関するさまざまな分野から課題を発見し、自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え、実行することができる。
	<i>A</i> わかる 健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であることがわかる。	健康についての思考を深め、自身の現状を適切に把握することができる。	日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
	<i>B</i> できる 保健に関する基礎的な知識やヘルスプロモーションの理念を理解できる。	適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	<i>C</i> する 保健に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができていない（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	健康の考え方と成り立ち、私たちの健康のすがた 健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり 生活習慣病とその予防、食事と健康 運動・休養と健康
2 学期	喫煙と健康、飲酒と健康、薬物乱用と健康 感染症とその予防、性感染症・エイズとその予防 欲求と適応機制、心身の相関とストレス 心の健康のために
3 学期	交通事故の現状と要因、交通事故を防ぐために 応急手当の意義とその基本、日常的な応急手当 心肺蘇生法の原理とおこない方

何で学ぶか(教材)

大修館書店 『最新高等 保健体育[改訂版]』 大修館書店 『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習

科目名	総合的な探究	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース・学年	研志 コース	
目標	課題の見つけ方、解決へ向けての考え方、協働の進め方などの基礎知識を身につけるとともに、鳥取県に関する地域課題解決案を考える中で、主体的に物事の探究をする態度を培っていく。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	授業や外部講師のお話を聞く中で、学んだ知識をもとに、求められた以上の工夫を加えて課題を解決できる。	プロジェクトを解決するにあたり、自分たちの意見を客観視しながら、修正を重ねて仕上げる事ができる。	学習内容をもとに主体的に次の課題を設定し、他者の意見を取り入れつつ、次の行動を起こす事ができる。
	A わかる	授業や外部講師のお話を聞く中で、学んだ知識をもとに、求められる水準で課題の解決をすることができる。	プロジェクト解決にあたり、他者の意見を取り入れつつも自分の意見を主張でき、まとめ上げることができる。	学習内容に対して主体的に取り組む、与えられた課題を自らの力で解決することができる。
	B できる	授業や外部講師のお話を聞く中で、学んだ知識をもとに、他者と協力しながら課題をやり遂げることができる。	プロジェクトを解決するにあたり、他者の意見を適切に聞き、まとめながら進めることができる。	学習内容に対して熱心に取り組む、与えられた課題を人の力も借りながら解決することができる。
	C する	授業や外部講師のお話を聞く中で、学んだ知識をもとに、難しい課題へも取り組もうとする。	プロジェクトを解決するにあたり、他者と協働しながら取り組みを進めることができる。	学習内容に取り組む、与えられた課題を解決しようとする姿勢がある。
評価方法	レポート、話し合い資料、プレゼン内容などの成果物	レポート、話し合い資料、プレゼン内容などの成果物、グループ活動	レポート、話し合い資料、プレゼン内容などの成果物、グループ活動	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学習内容
1 学期	(4月5月) チームビルディング (6月7月) コミュニケーション力
2 学期	(8月9月10月) 鳥取県の課題解決 (11月12月) 発表へ向けて
3 学期	(1月) クラス代表プレゼン (2月3月) 外部講師による講演

何で学ぶか(教材)

- ・オリジナル教材
(チームビルド、鳥取県の課題解決文脈の即した資料)
- ・講演、コーチング

どのように学ぶか(授業方法など)

- ・チームごとでの活動
(3～4名の班が適切)
- ・教材、外部講師

科目名	音楽Ⅰ	授業時数	週	1 単位	
		コース・学年	研志	コース	1 学年
目標	音楽に対する興味・関心を持ち、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	出来る限り楽譜に階名を書かなくても歌唱・リコーダーの演奏ができる。	自己のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。
基	腹式呼吸やリコーダーの運指を覚え、歌唱・リコーダーの演奏ができる。	ハーモニーを感じながら曲想に合った表現ができる。	グループ・アンサンブル学習に積極的に取り組むことができる。
準	単旋律の歌唱とリコーダーの基礎的な奏法を身につけることができる。	メロディを流れるようにスムーズに演奏することができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理論の学習に積極的に取り組むことができる。
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	音楽理論の基礎「五線」「音符と休符」 歌唱「校歌」 アルトリコーダー基礎「音階」等 アルトリコーダー「日曜日」
2 学期	音楽理論の基礎「音名」「階名」 歌唱「翼をください」 アルトリコーダー「主は冷たい土の中に」
3 学期	音楽理論の基礎「反復記号」「楽語」 歌唱「少年時代」 アルトリコーダー「エーデルワイス」

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSAⅠ」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア練習・グループ練習

科目名	美術Ⅰ	授業時数	週	1 単位	
		コース・学年	研志	コース	1 学年
目標	美術に対する興味・関心を持ち、意欲的に美術活動に取り組む態度を身に付ける。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	正確な描写、明度の表現ができる。他者への指導もできる。	自己のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	全ての学習を通して表現を工夫することができる。
基	物の表現がある程度のレベルまで表現ができる。	形、材質、トーンの表現ができる。	デッサン、彩色学習に積極的に取り組むことができる。
準	基礎的な表現法を身につけることができる。	構図を考えて、表現することができる。	デッサン、クロッキー、鑑賞・美術理論の学習に積極的に取り組むことができる。
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	オリエンテーション 身近なものの、デッサン ・手、筆記用具など 美術選択者全員のクロッキー
2 学期	色彩構成 グラデーションの効果 名画鑑賞 1 ゴッホの人生とその作品、背景
3 学期	作品模写 ゴッホ

何で学ぶか(教材)

高校生の美術 1 (日本文教出版)
副教材 スケッチブック、水彩画
用具 (中学校で使ったものを利用
してかまいません)。
それぞれの題材や活動で必要な材
料は、半期ごとに購入してもらい
ます。

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
・作品鑑賞、作品、作者説明 作
者の生き様、時代背景までを理解
しながら芸術作品を鑑賞する
(YouTubeなどの映像コンテンツの
使用)

教 科 名		芸術		科 目 名		書道Ⅰ	単 位 数	1 単位
対 象 学 年		第 1 学年		対象コース	研志コース		履 修 形 態	選択必修
科 目 の 目 標		書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。						
学習内容の概要		・漢字仮名交じりの書…中学校書写の内容、また高校での古典臨書を生かし、感興や意図に応じた題材(書く言葉)の設定や創造的な作品制作を行う。 ・漢字の書…中国及び日本の名筆(古典作品)の臨書学習を通し様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。 ・篆刻(立体作品)…印の歴史と文化も学び、今後制作する作品に用いるための姓名印を彫る。 古典や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。						
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)		意欲・関心・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能		鑑 賞 の 能 力		
		書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。		日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。		
教科書、教材など		書Ⅰ(教育図書) 鳥取城北高校選定筆、固形墨、半紙						
授 業 形 態		講義、実技、鑑賞						
年 間 授 業 計 画								
学期	月	単 元	単 元 の 目 標	学 習 内 容 (実験・実習等)		時間	評 価	
1	4	オリエンテーション 漢字仮名交じりの書①	書写の学習を振り返るとともに、書の芸術的要素を理解し表現する。	「高校生活の抱負を書こう」		3	書写の内容を踏まえ、書の芸術的要素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。	
	5	漢字の書の学習① 【楷書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①孔子廟堂碑 ②九成宮醴泉銘 ③雁塔聖教序 【創作】 古典を基にした1字創作	3	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、唐代の楷書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。		
	6				4			
	7				4			
2	8	篆刻の学習	篆刻の歴史を理解し、立体作品に興味を持って取り組む。	「姓名印を彫ろう」		1	印に関わる歴史やその用途について理解を深めるとともに、技法を身に付け取り組むことができたか。	
	9	漢字の書の学習② 【行書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①蘭亭序 ②風信帖 【創作】 古典を基にした多字創作 【古典臨書】 ①書譜	4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、行草書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。		
	10				4			
	11				4			
12	漢字の書の学習③ 【草書の古典に学ぶ】		4					
3	1	暮らしの中の書	冠婚葬祭に関する細字の知識と体裁よく書く技術を身に付ける。	実用細字を学ぶ(慶弔)		2	実用書への理解を深めるとともに、実生活に応用できる技術を身につけたか。	
	2	漢字仮名交じりの書②	学習した古典を生かし、感興や意図に応じた個性的な表現の工夫をする。	「今伝えたい言葉」を書こう	3	古典の特徴を活かし、自らの意図に基づいた表現が出来たか。		
	3				3			